

展示する標本・資料の選び方

以下1～5の条件・ポイントを参考にして、開催館の会場の展示環境や広さなどから標本・資料をお選びください。

【標本を選ぶ際の条件・ポイント】

1. 展示会場の環境・条件

(1) 遮光措置

- ・直射日光が当たる場所、半屋外の場所は避けてください。
- ・外光が入る場合(会場に屋外への窓やガラス張りの場所があり、紫外線が入る)
⇒遮光カーテンなどで外光が入らないよう対処する。

(2) 会場の温湿度管理

空調が効きにくい場所の場合は、標本資料リストの「温湿度管理」と記載があるもの以外から選ぶ。

★標本・資料を選ぶ際の決まりごと★

「集める、残す、調べる、伝える」各章それぞれに、国立科学博物館の標本・資料を「最低1つ」は置くように選んでください。

2. 貸出可能な展示ケース数の制限

- ・巡回展の展示ケースは、サイズが「S、M、L」の 3 種類があり、貸し出しできるケースは、すべて合わせて最大 10 台です。
- ・L サイズの標本を選ばない場合は、S または M サイズの標本資料を2つ追加できます。
- ・開催館所有のウォールケースなどを使用する場合、巡回展の展示ケース数に関係なく、標本・資料をお貸出しすることも可能です。

3. 体験型展示について

- ・標本・資料に加え体験型展示の準備もあります。体験型展示は全部で「4種類」あり、好きな数をお貸出しできますが、輸送の関係上、お貸出しできる展示ケースの数を調整させていただく可能性があります。
- ・会場内の置き場所は、4つの各章に1つずつ入れる、まとめて最後に置くなど、開催館の運用に合わせてお決めください。
- ・お子様が触る・動かす展示のため、設置期間中は定期的に巡視し、破損や危険な状況がないかの確認をしていただくことになります。
- ・体験展示のみの貸出し(標本・資料は借りない)は対応できません。

4. カルカロドントサウルス頭骨のレプリカ(大型展示)について

- ・企画展示室の入口や、案内カウンターの横などに置いて、巡回展示の会場に誘導するための「アイキャッチャー」とすることができます。
- ・4つの章に紐づける必要はなく、巡回展示の部屋から離れた場所に置くことができます。
- ・「アクリルカバー」が無く、「結界(仕切り)」で囲うタイプのもので、結界の中にお客様が入らないよう、なるべくスタッフの目に届きやすい場所が望ましいです。

【5. 開催館が所有する標本・資料を合わせて展示する（推奨）】

「集める」「残す」「調べる」「伝える」のテーマごとに、開催館がお持ちの標本・資料を追加して、展示いただくことを推奨いたします。

↓ ↓

ぜひ、貴館の特徴をあらわすもの、地域ならではのもの、貴館の「一押し」のものを合わせて展示してください。